

3年福祉保育コース「介護過程」（選択科目）多職種の外部講師から学ぶ

令和4年6月16日（木）5時間目

言語聴覚士による講座

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 茨城県済生会

水戸済生会病院 言語聴覚士 河野 直弘 様

（一般社団法人 茨城県リハビリテーション専門職協会より紹介）

言語聴覚士の専門性について「ことばの鎖」のつながりなかで、聴く事の障害、話す事の障害、どこ
の段階が上手くいかないかにより、支援方法が異なってくることを学びました。言語聴覚士が行うコ
ミュニケーションの支援では、「評価」「練習」「情報提供」があり、「情報提供」では、他職種に「患
者様と話す時に、こうすれば患者様に伝わりやすい」と伝える役割もあることを学びました。食べるこ
とへの支援については、言語聴覚士だけでなく、看護師、介護士と一緒に連携して「安全な環境で食べ
られるよう支援していく」ことを学びました。また、反復唾液嚥下テストの体験では、姿勢により、嚥
下に影響することを学ぶことができました。さらに、コミュニケーションは、言語情報と非言語情報が
バランスよく作用がとれているときに良いコミュニケーションになること、沢山の情報処理ができない
認知症や失語症のある方へのコミュニケーションでは、口調や表情など非言語的情報がより重要になる
ことも学びました。

最後に「摂食嚥下における多職種連携」について、河野先生の働く現場の患者様や多職種の職員さん
の動画を紹介いただき、多職種連携について「お互いに補いながら行う」こと「相手に敬意を払い
つつ、自分の意見を主張する」とのお話をいただきました。ご指導、ありがとうございました。

